# 1999年中国考古学関連文献目録

高階審太郎・久慈大介・崎川隆
・吉田章人・黄川田修

【展覧会図録】

●芦屋市立美術博物館［編集・発行］『モダニズム再考　二楽荘と大谷探検隊』
●和泉市久保惣記念美術館［編集・発行］『平成11年度特別展　中国の響銅』
●大阪市立美術館・読売新聞大阪本社［編集］、読売新聞大阪本社［発行］『特別展覧会「よみがえる漢王朝」－2000年の時を越えて－』
●大阪府立弥生文化博物館［編集・発行］『大阪府立弥生文化博物館図録19　平成11年秋季特別展　仙界伝説　－卑弥呼の求めた世界－』
●群馬県立歴史博物館［編集・発行］『開館20周年記念　第63回企画展　観音山古墳と東アジア世界　-海を越えた鏡と水瓶の緑－』
●国立歴史民族博物館［編集］、朝日新聞社［発行］『新弥生紀行』
●新潟県立近代美術館・朝日新聞社文化企画局・博報堂［編集］、新潟県立近代美術館・朝日新聞社・博報堂［発行］『中国の正倉院　法門寺地下宮殿の秘宝　「唐皇帝からの贈りもの」』
●北海道立近代美術館［編集］、北海道新聞社［発行］『シルクロードの煌き－中国・美の至宝』
●山口県立萩美術館・浦上記念館［編集・発行］『シリーズ山東文物２　黄河の酒神展』

【単行本】

●愛宕元『中国密教』（春秋社）
●池田知久『郭店楚簡老子研究』（東京大学文学部中国思想文化研究室）
●王建新『東北アジアの青銅器文化』（同成社）
●オーレル・スタイン［山口静一・五代徹訳、加藤九祚解説］『砂に埋もれたホータンの廃墟』（白水社）
●岡村秀典『中国古代王朝形成期における畜産と動物犠牲の研究（平成9－10年度科研費報告書)』
●小渾正人・西江清高・谷豊信『中国の考古学＜世界の考古学７＞』（同成社）
●大庭脩『漢簡の基礎的研究』（思文閣出版）
●原州連合調査隊『唐史道洛墓』（勉誠出版社）
●甲元眞之編『環日本海沿岸地域の先史文化第２編』平成10年度文部省科学研究費補助金

特定領域研究 A1　考古学研究成果報告書 7
甲元眞之編『環日本海沿岸地域の先史文化第 2 編（追補）』平成 10 年度文部省科学研究費補助金特定領域研究 A1　考古学研究成果報告書 7
●徐朝龍『長江文明の謎＜ふだばらいふ新書＞』（二葉社）
●セルゲイ・F・オリデンブルグ［加藤九祚訳］『ロシア第一次東トルキスタン調査団報告 1909-1910』（オリデンブルグ刊行会）
●唐代史研究会『東アジア史における国家と地域（唐代史研究会報告ィ）』（刀水書房）
●平□隆郎『左伝の史料批判的研究』（汲古書院）
●藤川繁彦『中央ユーラシアの考古学＜世界の考古学 6 ＞』（同成社）
●三宅俊彦『中国古代北方系青銅器文化の研究　（国学院大学大学院研究叢書一文学研究科 6）』
●籾山明『漢帝国と辺境社会』（中央公論社）
●吉岡眞『現存唐代墓誌研究－総合目録の作成』＜平成 8 年度－平成 9 年度科学研究費補助金基盤研究C（2）研究成果報告書＞
●C・ダニエルズ／渡部武編『四川の考古と民俗』（慶友社）

【論文・翻訳・書評 etc.】

●秋山進午「甘粛武威考古前記－平成 9 年度国際学術研究報告のニー」（『大手前女子大学論集』32,　p.119-136）
●愛宕元「唐代京兆府・河南府郷里村考」（『東アジア史における国家と地域』）
●愛宕元「唐代揚州城復元の現状」（代表・礪波護『中国歴代王朝の都市管理に関する総合的研究』平成 8－10 年度科研費報告書）
●阿辻哲次「『説文解字』と甲骨文字」（『しにか』10 － 4,　p.60-65）阿部幸信「漢代の印刷・綬制に関する基礎的考察」（『資料批判研究』3,　p.1-27）
●池澤優「西周金文の祖先祭祀における祭祀対象」（『論集　中国古代の文字と文化』, p.159-177）
●池田雄一「長江文明と尹湾漢簡・馬王堆「小域図」」（『東アジア史における国家と地域』, p.4-30）
●石田千秋「甲骨文字と殷墟　－殷墟について甲骨文字からなにが分かるか」（『しにか』10 － 4,　p.44-51）
●市来弘志「五胡十六国・北魏の牧畜」（『日中文化研究』14,　p.36-43）
●今尾文昭 F 弩機銘文にあらわれた魏と呉」（『文化学年報（同志社大学文化学会）』第 48 輯,　p.89-116）
●岩本篤志「コンピューター利用による包山楚簡・楚系文字の研究」（『中国出土資料研究』

3，p.82-100）
●臼杵勲「－書評－　大貫静夫著『東北アジアの考古学』」（『考古学研究』46-3，p.106-108）
●浦野俊則「甲骨文字と金石文　－書体の萌芽を見る」（『しにか』10 － 4，p.52-59）
●榎本進「松花江流域出土の「寛永通宝」，その歴史的背景」（『東北学院大学東北文化研究所紀要』31，p.128-96）
●江村治樹「戦国新出土文字資料概述・補訂－貨幣部分」（『名古屋大学文学部研究論集（史学）』45，p.95-116）
●エフゲニア・Ｉ・ゲルマン著　アナトリィ・エリシェフ訳「渤海の陶器と磁器」（『アジア遊学』6，p6-13）
●エフゲニア・Ｉ・ゲルマン著　荒井雅子訳「ロシア沿海州中世遺跡出土の施釉陶器と磁器」（『アジア遊学』6，p.14-24）
●王維坤「隋唐長安城の総設計プランと平城京におけるその受容」（『文化学年報（同志社大学文化学会）』48，pl97-220）
●王衛明「青州龍興寺出土蛮蔵仏教造像初論」（『京都橘女大学研究紀要』25，p.16-74）
●王海燕・朱岩石「中国古代都城史における魏晋南北朝時代の意義」（『国学院大学考古学資料館紀要』15，p.147-180）
●王培新「中国における渤海都城と交通路の研究」（『アジア遊学』6，p.25-34）
●大櫛敦弘「秦邦」（『論集　中国古代の文字と文化』p.319-332』
●大庭脩「『居延漢簡補編』の出版」（『漢簡の基礎的研究』 p.115-124』
●岡田功「中国古代木簡「甘露二年『御史書』冊をめぐって　前漢時代武帝亡き後の燕王旦クーデターの波紋」（『大宮西高校研究紀要』5，p.1-25）
●岡村秀典「中国古代王権と祭祀」（『考古学研究』46-2，p.73-91）
●岡村秀典「龍山文化後期における玉器のひろがり」（「史林」 82-2, p.103-129）
●岡安勇訳注「漢馮奉世趙壮侯墓表」（『中国出土資料研究』第３号，p73-94）
●河創国「朝鮮の渤海遺跡　－咸鏡補駆動を中心に」（「アジア遊学」 6，p.61-64）
●霜巍「蜀とキソの間の考古学－考古学から見た古代西南中国－」（『四川の考古と民俗』p.6-57）
●勝木言一郎「石鼓廟地獄図壁画の図像について」（『アジア遊学』10，p.59-80）
●加藤修「西晋－唐代における壁画墓の被葬者」（『女子美術大学紀要』29，p53-76）
●加藤真二「東アジアの前期・中期旧石器文化」（『考古学ジャーナル』444，p.12-16）
●門田明「中国簡牘研究目録〔1903-1997〕」（『漢簡の基礎的研究』 p.125-212』
●亀井明徳「渤海三彩陶試探」（『アジア遊学』6，p.82-98）
●亀井明徳「隋唐期竜耳瓶の形式と年代」（『専修人文論集』65，p.51-84）
●亀井明徳「陶範成形による隋唐の陶瓷器」（『出光美術館館報』106，p.64-88）
●韓国河「中国古代における不思議な青銅器埋納」『しにか』10 － 8，p.124-125）
●北田英人「宋元江南デルタの潅漑農業と塢の産業」（『日中文化研究』14，p.52-61）

●黄華珍「郭店楚墓竹簡のはなし」(『東方』99-1,　p.30-33)
●康際根・難波純子「中商文化の認識とその意義」(『考古学雑誌』84-4,　p.27-69)
●江介也「古代東アジアの熨斗」(『文化学年報（同志社大学文化学会)』48,　p.173-196)
●甲本眞之「環東中国海の先史漁携文化」(『文学部論叢　歴史学編（熊本大学)』65, p.133-165)
●古賀登「蜀の開国伝説と氐羌　－併せて賓人を論ずー」(『東アジア史における国家と地域』刀水書房,　p.240-256)
●小嶋芳孝「渤海の産業と物流」(『アジア遊学』6,　p.65-81)
●後藤雅彦「珠江三角州地域をめぐる先史文化研究」(『人間科学（琉球大学法文学部)』4, p.61-88)
●小柳美樹「稲と神々の源流」(常木晃編『食糧生産社会の考古学（現代の考古学 3)』朝倉書店,　p.72-99)
●小南一郎「史の起源とその職能」(『東方学』98,　p.1-13)
●小山満「曇曜五窟と『法華経』」(『創価大学アジア研究』第 20 号,　p.22-35)
●齋藤勝「唐代の馬政と牧地」(『日中文化研究』14,　p.44-51)
●酒寄雅志「「唐碑亭」、すなわち「鴻臚井の碑」をめぐって」(『朝鮮文化研究』6,　p.33-60)
●酒寄雅志「渤海王権と新羅・靺鞨・日本との関係」(『アジア遊学』6,　p.35-44)
●佐川正敏「旧石器考古学の新視点」(『はじめて出会う日本考古学』p.161-190 頁』
●佐藤宏之「中国・朝鮮半島の旧石器時代と日本」(『第 7 回岩宿フォーラム／シンポジウム岩宿発掘 50 年の成果と今後の展望－予稿集－』 p.37-45)
●佐藤洋一郎「DNA が語る稲作の歴史」(常木晃編『食糧生産社会の考古学（現代の考古学 3)』朝倉書店,　p.126-132)
●塩沢裕仁「建康石頭城と洛陽金錦城－都市空間と防衛構想に触れてー」(『法政史学』51, p.34-65)
●塩谷修「秦の始皇帝陵の成立をめぐって」(『博古研究』17,　p.35-39)
●島田正郎「西夏法典初探　－闘殴・誤傷殺－」(『古代文化』51-2 [vol.481],　p.3 - 17)
●周長山「漢代の都市分布について」(『立命館東洋史学』22,　p.77-97)
●蒋衛東（中村慎一・高木晃　訳)「良渚文化の鉞」(『古代学研究』145,　p.15-25)
●新免康「聖なる空間を訪ねて　－新疆ウイグル社会における墓廟（バザール)」(『アジア遊学』1,　p.100-117)
●末次信行「殷墟西北岡王陵区の一一七四号小墓をめぐって」(『郵政考古紀要』27, p.34-64)
●末次信行「西周時代の甲骨文字」(『しにか』 vol.10 no.4,　p.66-71』
●末次信行「『春秋』に見える農業・気象関連記事（下)」(『金蘭短期大学研究誌』30, pl-13)
●末次信行「殷代の気象と農作物　－占われた雨と麦－」(『日中文化研究』14,　p.10-19)
●末房由美子「江西新干大洋洲出土の臥虎大方鼎に就いて」(『中国考古学会会報』9, p.51-81)
●鈴木敦「甲骨文字におけるセリエーション把握」(『論集　中国古代の文字と文化』p.31-44』

●鈴木敦「『甲骨文字典』における採字方法の検討」((茨城大学人文学部紀要〈5〉　コミュニケーション学科論集)　p.177-189)
●鈴木敦「甲骨文字を解読する」(『しにか』10 － 4,　p.25-30)
●鈴木靖民「渤海国家の構造と特質－首領・生産・交易－」(『朝鮮学報』170,　p.1-28)
●鈴木靖民「潮海の遠距離交易と荷担者」(『アジア遊学』6,　p.99-110)
●關尾史郎「トゥルファン文書調査記」(『東方』99-5,　p.2-5)
●薛麹・鄭東（訳：久保智康）「中国で発見された 15～18 世紀の日本銅鏡」(『考古学雑誌』84-3, p.80-117)
●妹尾達彦「唐長安城における官人の居住環境」『歴史人類（筑波大学歴史・人類学系)』27,　p.1-37)
●高橋学而「遼代の従嫁戸を構成の主体とする頭下州城について　－近年の考古学的成果から一」(『古文化談叢』42,　p.105-136)
●高橋継男「洛陽出土唐代墓誌四方の紹介と若干の考察」(『東洋大学文学部紀要（史学)』24,　P105～140)
●高村武幸「前漢末属吏の出張と交際費について　尹灣漢墓簡牘『元延二年日記』と木牘七・八から」(『中国出土資料研究』3,　p.49-72)
●高久健二「楽浪彩篋塚（南井里一一六号墳）の埋葬プロセス　－その復元的研究と諸問題の考察－」(『朝鮮文化研究』6,　p.1-32)
●高久由美「釈□　－古文字研究における考古資料利用の試み一」(『論集　中国古代の文字と文化』),　p.45-69
●竹内康浩「西周金文中の『天子』について」(『論集　中国古代の文字と文化』,　p.105-130)
●竹内康浩「洛陽出土伝世品青銅器研究(1)」『東京大学東洋文化研究所紀要』138, p271-366)
●田崎博之「長江下流域の土地環境と稲作・水利開発」(『日中文化研究』14,　p.20-27)
●谷一尚「唐・史道洛墓出土のガラス六曲杯－正倉院蔵鉛ガラス曲杯の技法的原型－」(『古代文化』8,　p.9-15)
●谷豊信「漢代紀年銘遺物に関する一考察」(『論集　中国古代の文字と文化』　p.365-388』)
●田村晃一「渤海の土城・山城・寺院」(『アジア遊学』6,　p.54 - 60)
●田村晃一「－書評－　秋山新午著『東北アジアの考古学研究』」(『考古学雑誌』84-4, p.90-98)
●張建林（孫暁崗訳）「唐代壁画墓の屏風画」(『博古研究』18,　34-43)
●陳波「日本における中国古印の研究　付：日本収蔵中国古印図録」(『漢簡の基礎的研究』p.77-114)
●辻正博「英蔵敦煌漢文文献の現在」(『唐代史研究』2,　p.59-67)
●鄭阿財「台湾の敦煌学の動向」(『唐代史研究』2,　p.47-58)
●鄭禮京「過渡期の中国仏像にみられる模倣様式と変形様式」(『仏教芸術』247,　p.89-134)
●董志翹「敦煌文献詞語雑考」(『中国語研究』第 41 号,　p､61-69)

●黨武彦「清代陵墓建築の歴史的研究－崇陵建築初期の行政処理過程－」(『人文科学年報(専修大学人文科学研究所)』29,　p.55-88)
●土肥義和「敦煌莫高窟供養人図像題記について　その配置を中心として(1)」(『東アジア史における国家と地域』 p.337-374』)
●豊田久「西周金文に見える『家』について」(『論集　中国古代の文字と文化』 p131-158』)
●長友恒人・横田勝・外山潔「范の熱ルミネッセンス真贋判定とX線解析法による成分分析」(『泉屋博古館紀要』16,　p.32-48)
●直井晶子「前漢初期の県令と門下・舎人　張家山漢簡「奏□書」案件十六をめぐって」(『史滴』21,　p.19-33)
●中村愿「幻しの夏王朝を求めて　北京大学考古系教授鄒衡先生の日々」『WE ARE ONE アジア文化交流協会新聞』創刊号
●成家徹郎「商王朝西周王朝の実年代」(『日本中国考古学会会報』9,　p.24-50)
●成家徹郎「日本人の甲骨研究　先駆者・富岡謙蔵と林泰輔」『しにか』99-11,　p.88-95
●難波純子「－書評－　林巳奈夫著『中国古玉器総説』」(『史林』82-5,　p.163-168)
●西江清高「西周時代の関中平原における『□』集団の位置」(『論集　中国古代の文字と文化』 p.207-244』)
●西川利文「尹湾漢墓簡牘の基礎的研究－三・四号木牘の作成時期を中心として－」(『文学部論集(仏教大学文学部)』83,　p.1-16)
●馬一虹「渤海と唐の関係」(『アジア遊学』6,　p.45-53)
●林巳奈夫「石家河文化の玉器をめぐって」(『泉屋博古館紀要』16,　p.l-3l)
●林巳奈夫「－第204回水曜講演会－　中国文明の源流」(『出光美術館館報』109, p.28-38)
●原宗子「古代中国の農政と環境」(『中国－社会と文化』14,　p.3-27)
●原宗子「日中共同調査が拓く新地平」『東方』99-5,　p.32-35
●原宗子「東アジアの中の中国農業」(『日中文化研究』14,　p.2-9)
●非非「考古学はわが人生　北京大学考古系教授鄒衡先生ロング・インタビュー」『WE ARE ONE　アジア文化交流協会新聞』第2号
●樋口昭「飛天が奏でる天宮の楽　－石窟壁画にみる楽器の形状」(『アジア遊学』10, p.94-104)
●平尾良光「古代中国青銅器の鉛同位体比」(『日本中国考古学会会報』9, p.1-23)
●平□隆郎「戦国時代六国文字における「勺」等の略化について」((論集　中国古代の文字と文化J p.311-318)
●廣川守「春秋戦国時代中原における帯鈎の編年と使用形態(上)」(『泉屋博古館紀要』16, p.71-102)
●傅熹年「含元殿遺構とその当初の状態に対する再検討(『仏教芸術』246,　p.113-136)
●藤岡喜久男「張家「家書」論考」(『法学研究(北海学園大学)』35-1,　p.45-88)
●藤田勝久「包山楚簡よりみた戦国楚の県と封邑」(『中国出土資料研究』3,　p.16-34)

●方学鳳・呉満「渤海国の武器について」(『東アジア研究』25,　p.33-59)
●堀大介「中国における井戸の成立と展開」(『文化学年報（同志社大学)』48,　p.35-58)
●町田隆吉「麹氏高昌国時代馬寺経済文書－吐魯番出土仏教寺院経済関係文書管見－」(『東京学芸大学教育学部附属高等学校大泉校舎研究紀要』23,　p.67-76)
●松井嘉徳「周の領域とその支配」(『中国史学』第９号,　p.85-101)
●松井嘉徳「仲山父の時代」(『東洋史研究』57-4,　p.622-654)
●松崎つね子「楚・秦・漢墓の変遷より秦の統一をみる　－頭向・葬式・墓葬構造を通して－」(『東アジア史における国家と地域』p.31-59)
●松丸道雄「漢字起源問題の新展開」(『論集　中国古代の文字と文化』p.3-29)
●松丸道雄「甲骨文字のしくみ」(『しにか』10-4,　p.16-24)
●松本みどり「孫機著『唐・李寿墓石椁の線刻画』」(『古代文化』51-5,　p.300-307)
●丸山裕美子「静岡県磯部武男氏所蔵敦煌・吐魯番資料管見」(『唐代史研究』2,　p.16-26)
●道家康之助「越族が渡航して弥生時代を作った」(『東アジアの古代研究』101,　p.40-56)
●簑島栄紀「渤海滅亡後の北東アジアの交流・交易」(『アジア遊学』6,　p.127-133)
●宮本一夫「琉璃河墓地から見た燕の政体と遼西」(『考古学研究』46-1,　p.91-111)
●宮本一夫「オルドス青銅器文化の地域性と展開（上）（下)」(『古代文化』51-9(p.32-57), 51-10　(p. 19-23))
●宮本一夫「欧米における近年の中国考古学研究と日本における中国考古学研究」(『日本中国考古学会会報』9,　p.82-95)
●宮本一夫「中原と辺境の形成　－黄河流域と東アジアの農耕文化－」(常木晃編『食糧生産社会の考古学（現代の考古学 3)』朝倉書店,　p.100-125)
●宮本一夫「ハーバード大学ピーボディー考古民族博物館におけるヤンセ資料の調査」(『月刊文化財発掘出土情報』７月号)
●宮崎洋一「顔芯卿書『東方朔画賛碑』に関する主要な題跋・著録の整理について」(『書論』31,　p.169-178)
●宮崎洋一「中国古代の石刻文の分類について」(『文教国文学』41,　p.36-47)
●武者章「甲骨文字に見る殷代の歴史」(『しにか』 vol.10 no.4,　p.31-37)
●武者章「西周『漁』史研究」(『論集　中国古代の文字と文化』,　p.245-268)
●村松哲文「雲門山石窟における菩薩像の腰帯表現」(吉村博士古稀記念会編『東洋美術史論叢』雄山閣出版,　p.197-216)
●村松哲文「中国南北朝期における菩薩像の胸飾について」(『美術史研究』37,　p.77-98)
●村松弘一「中国古代関中平原の都市と環境」(『史潮』新 46,　p22-45)
●森部豊「河北藩鎮における茫陽盧氏の動向－「盧侶墓誌銘」訳註を中心に－」(『史峯』8, p.42-56)
●家泉博・池田一郎・金井安子・菊地実「黒龍江省辺境要塞遺跡の踏査」『考古学研究』46-2, p.11-17)

●八木春生「北魏時代後期の仏（道）教造像に見られる漢民族の伝統図像について」(『仏教芸術』245,　p. 13-47)
●山岸公基「中国の仏教遺跡の歴史と現状　－麟游慈善寺石窟の場合」『木簡（奈良県図書館会報)』47,　p.5)
●弓場紀知「中国の磁器の起源　－いわゆる『原始磁器』の陶器史上の位置付けを中心に－」(『出光美術館研究紀要』5,　p.119-148)
●横田恭三「包山楚簡の文字とその書風」(『論集　中国古代の文字と文化』 p.287-310)
●横田禎昭「中国新石器時代葬制の考古学的研究」(『島根県立国際短期大学紀要』6, p.71-106)
●吉開将人「印からみた南越世界（中編）－嶺南古璽印考－」(『東洋文化研究所紀要』137, p.1-45)
●吉川忠夫「汲家書発見前後」(『東方学報（京都)』71,　p69-132)
●吉田恵一「趙輝氏講演「中国文明起源問題研究中の一基本問題」」(『国学院雑誌』100-1, p.72-73)
●吉村怜「盧舎那法界人中像再論　－華厳経主盧舎那仏と宇宙的釈迦仏」(『仏教芸術』242, p.27-49)
●吉村昌之「漢代太初暦考」(『漢簡の基礎的研究』 p.31-76)
●李均洋「龍の造形史（上)」(『東アジアの古代研究』101,　p.24-39)
●李峰「多友鼎銘文をめぐる歴史地理的問題の解決　－周王朝の西北経路を解明するために・その一」(『論集　中国古代の文字と文化』,　p.179-206)
●李令福（張樺訳)「華北平原における二年三熟制の成立時期」(『日中文化研究』14, p.62-75)
●劉慶柱・李毓芳（高島敏夫訳)「漢の長安城未央宮」(『西伯』6,　p.39-69)
●林華東・梁志明「浙江省紹興印山で発掘された越国王陵」(『東アジアの古代研究』100, p.183-189)
●早稲田大学秦簡研究会「雲夢睡虎地竹簡「法律答問」訳注初稿（一)」(『史滴』20, p.18-53)
●早稲田大学長江流域文化調査隊編「早稲田大学長江流域文化調査隊報告－桃坪羌寨（二)・芒城遺跡篇－」(『史滴』21,　p.103-114)
●渡部武「西南中国在来犁の諸問題　－唐代『南詔図巻』申の二牛拾犢図をめぐって」(『日中文化研究』14,　p.28-35)